

★自民党と反動の改憲策動、軍国主義路線を断固粉碎しよう！
★「搾取の廃絶」と「労働の解放」の旗を高く掲げよう！
★議会・選挙闘争に参加し、労働者党の議員を勝ち取ろう！

海つばめ

発行 労働の解放をめざす労働者党
発行所 全国社研社

〒179-0074 東京都練馬区春日町1-11-12-409
TELFAX 03(6795)2822 郵便振替 00120-6-166992
定期購読料 (送料共) 1年分＝開封2000円 密封2500円
HP=http://www.mcg-j.org/ Eメール=webmaster@mcg-j.org

「雌伏」の時を経て「雄飛」へ 労働の解放をめざす労働者党として再出発

「潮も適いぬ今は漕ぎ出でな」
5年後に労働者党議員の実現を！

メンバー参加の労働者の皆さん！ 我々はそのもとで14年間を闘ってきたサークル的組織、「マルクス主義同志会」を解散、今回組織された「労働の解放をめざす労働者党」に団結し、新しい闘いの段階に進むことを4月の大会で決議した。「労働の解放をめざす労働者党」が新しい党の正式名称である。この党名の意味するところは、大会で採択した我が党の新綱領の前文の部分に明らかなので、それを参照されたい(本号外 裏面に掲載)。我々は新しい党の名称として、「社会主義」の党などの「伝統的に」使用されてきた名称を避け、新鮮で、我が党の目標に相応しい「労働の解放」という言葉を採用した。それはこれまでも、機関紙『海つばめ』上で、題字左横のスローガンの一部として、高々と、そして長らく掲げられてきたものである。

我々の闘いの展望と戦術

我々の大会は、労働者党の再建と共に、国政選挙・議会闘争への復帰も決議し、5年後、つまり今後2回目の参院選において比例区で闘い、最低1名の労働者議員をかちとり、我々の議会闘争の突破口を切り開くという、具体的で、鮮明な目標と課題を明らかにし、そのためにこの5年間を闘うことを決議した。

「復帰」という言葉を使うのは、我々はかつて「社会主義労働者党」(社労党)等として、十数年間、国政選挙を中心に選挙・議会闘争に挑戦し、闘い抜いた歴史と伝統を持っているからである。

「労働の解放をめざす労働者党」は「社労党」の延長であり、復帰であると共に、それとは区別される政党、一層階級的であり、一層根源的な形で闘う政党、甘さを残していた社労党を越える政党であり、またそうして行かなくてはならないと決意している。

我々は、今後の5年間の我々の闘い、つまり労働者党の代議士を誕生させ、自民党や公明党、民進党、共産党などの腐敗した資本の政党やプチブル党による議会独占に風穴を開け、突破口を切り開く闘いの5年間の展望を、三段跳びの「ホップ、ステップ、ジャンプ」という言葉とイメージで表現し、議論した。

参院選にも確実に参加するということである。

後者の場合も当然、都道府県を選挙単位とする選挙区選挙である、というのは、ここでも政党要件を満たすことができず、当選を現実的に目指せる、比例区選挙からは排除されているからである。

衆院選も参院選も、小党派政党、労働者政党にとってはひどい差別的で、不公正な制約(小選挙区制、供託金制度、政党要件、政党助成金制度等々)がはびこり、そんな反民主的でインチキな、名ばかりの「民主」制度のもとでの闘いになる。公正で、正義の精神に合致した形での闘いは最初から存在しておらず、我々はスタートで大きなハンディキャップーかつての我々の挑戦を挫折させたようなーを背負いながら闘いを開始する以外ない。

偉そうに選挙で勝って、過半数の議席を獲得したという安倍自民党も、絶対得票数でいえばせいぜい2割、3割くらいで、少数党を犠牲にし、多くの死票の山の上に、6割7割という偽りの議席を得ているにすぎないのだから、威張ることなど何もないのだが、

安倍にしろ、橋下にせよ、現在のインチキ民主主義(不公正で、差別的で、事実上反民主的な選挙であろうと何であろうと、とにかく議会の多数はすべてである、文句があるかと聞き直っている。

彼らは現在の選挙制度やエセ民主主義なら反対でないばかりか、むしろ大賛成で、それを利用しつつ、その味方であるかに装うのだから、現代の「民主主義」とは安倍派や橋下派の権力独占を、横暴で横着で、厚顔無恥の半独裁政治を保障する、いい加減な制度だと糾弾するしかない。

しかしこの厚い壁の前に泣き言や御託を並べていても無意味で、労働者は力を結集して、そんな壁を断固粉碎、打破し、彼らの鼻を明かしてやらなくてはならない。

新綱領や、党の歴史、特性、俯して地に恥ぢず、仰ぎて天に愧づる無し)

共産党は100年、共産主義の党つまり「共産党」の名のもとに闘ってきたと自慢している。つまらないうぬぼれと独りよがりというものである。長い党歴を誇っても何の意味もない、というのは、この党は一貫して頹廃と腐敗を深め、自らの掲げる理想を卑しめ、裏切り続ける歴史しか有していないからであり、最近の天皇生前退位問題では、民進党を飛び越えて、安倍自民党と「共闘」するまでに腐りきってしまったからである。

我々は60年安保闘争の直後に、社会党や共産党はもちろん、一切の「新左翼」諸派から手を切り、独自の闘いを始めてからすでに55年になんなんとする党派であり、確かに一貫して一つの名で闘うことなく、「全国社会科学研

究会(会研研)」、「社会主義労働者党(社労党)」、「マルクス主義同志会」等々、そのときどきの客観的、主体的な状況の中で、また我々の闘いの課題や性質に応じていくつかの名のもとに闘ってきた組織である。

しかし名前は一貫しているが、内容では一貫しておらず、まさに墮落の一途をたどった共産党と違って、闘いの原則や基本的な内容では終始一貫変わったり、ゆらいだりすることはなく活動してきた党派である。

共産党は2年ほど前には、「唯一の」革新政党を謳い、民進党(当時、民主党を日和見主義であり、保守分子まで多く含む墮落した党だと攻撃し、「自共対決」を呼号していたのである、ところが最近の大会では、民進党との連携を今度は絶対視し、「野党共闘」こそ自民党と対決し、それを打倒する唯一の道であると叫び、あまつさえ、そんなものが「政治闘争の新しい段階」であり、その偉大な進化であるといった、大層な「政治哲学」か何かは知らないが振りまいていい気になっているような党である、つまりプチブル党、日和見主義党という以前に、ドクマに取りつかれた単なる愚劣な党である。

我々は新左翼のテロ党派、内ゲバ党派とは全く違った「議会主義」路線を採用し、またその闘いを通して労働者、勤労者に訴え、組織し、闘いの道を切り開くことを課題にも目的にもしてきた党派であって、我々ほどに合法的であって党派はなく、我々に比べれば、自民党ほどに、安倍政権ほどに「非合法」そのもので(憲法違反の政党だ、超法規的「言動をこととする、下劣で卑しい党派はない。

我々の内部でも激しい論争や路線対立もしょうちゅうだったが、しかしそれが暴力的な対立に至ったことは一度としてなく、まして新左翼諸派のような、野蠻で愚劣な「内ゲバ」といったものに関係したことも一度としてない。

「極小」党派としての我々の前には、多くの困難や障害がある、しかし我々は金銭も含めて、我々の前に立ちふさがる、ありとあらゆる壁を乗り越え、労働者党としての原則的闘いを貫徹する覚悟である。

【注】 我が党はまさに「俯(ふ)して地に恥(は)ぢず、仰(あ)ぎて天に愧(は)づる無し」(河上肇の晩年の漢詩より)の党である。

心ある多くの労働者の結果と団結を呼びかける。 見出しの「潮(しほ)も適(あ)かないぬ今は漕(こ)ぎいでな」は、万葉集の額田王(ぬかたの)のおおきみの歌、「熱田津(にきたつ)に船乗りせんと月待てば 潮も適いぬ今は漕ぎいでな」からとった。おおらかな古代の名歌です。また「労働の解放をめざす労働者党」の新綱領は、2000円で扱っています。声をかけてください。



飛耳長目

★明仁は天皇制の維持と延命のため、生前退位を言い始めたが、安倍は天皇の意図を無視することでもできず、といって、天皇の言うがままにやることもできず、自分の支持基盤である軍国主義派、天皇制原理主義者の意図も汲んで、結局は特別法による、明仁のみの退位でお茶を濁した★天皇も国民の過半数も望んでいた、憲法と皇室典範の改正による、恒久的な生前退位というやり方に反してである。つまり今回の問題の解決は徹頭徹尾、安倍とその意思によるもので、安倍にまさる皇室蔑視の「不逞の輩」はいない★そして共産党は、せめて天皇の意志に沿って合憲的なやり方を主張した民進党を飛び越え、終始一貫、安倍政権を支え、事実上共闘した★共産党は戦前、天皇制の打倒を一面的に強調する、戦略的に間違った綱領を掲げ、そのため、天皇制軍国主義の官憲による激しい弾圧を受け、多くの党員を官憲の餌に献上、小林多喜二を始め虐殺された党員もあまたいた★そんな歴史も伝統もかなぐり捨て、天皇制を肯定したのみならず、天皇家の憲法違反の政治策動――「公的活動」の美名による「激戦地慰霊」等の、事実上の戦犯一家としての立場も弁えぬ破廉恥行為――も容認したのに加え、安倍と固く連合して、天皇制維持のため劣を惜しまなかった★草葉の陰で幸徳秋水や多喜二らはどんなに怒り、不破や志位の墮落や裏切り

に呆れていることか。